

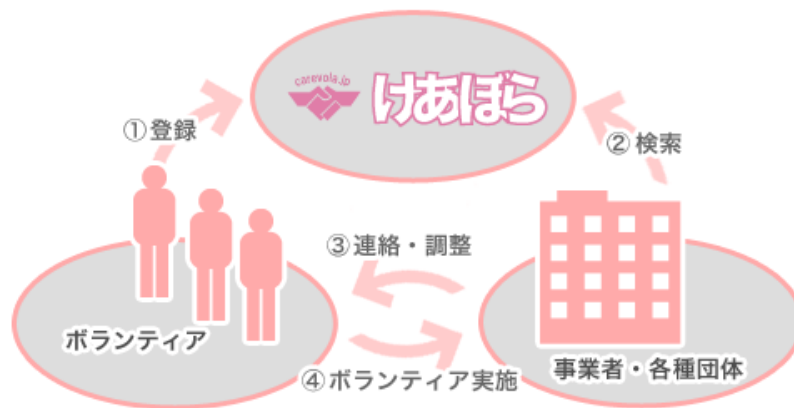
## 東日本大震災後のケアにかかわる「けあぼら」プロジェクト 趣意書及び企画書

### 「けあぼら」とは

「けあぼら」とは、東日本大震災にはじまる被害を受けた人々にかかわろうとする、ケアの専門性を持つ人：ケアワーカー（※1）が、効果的に、息長くケア活動が続けられるよう、ケアボランティアの情報提供とコミュニケーション促進を支援するウェブサイト上のプラットフォームです。

「けあぼら」の仕組みはシンプルです。

被災地や被害を受けた人々に関わろうとするケアワーカーが、ケアの専門性や条件に関する情報を登録します。ケアワーカーに来てほしいケアの現場（避難所や事業所など）が、ウェブサイトの情報を見、登録しているケアワーカーに直接連絡して条件を確認、支援を依頼します。そしてケアワーカーが現場に出向くというものです。



※1 「けあぼら」は、介護や生活支援に限らず、広い意味でケアの専門性がある人をケアワーカーと定義します。ここには、ケア経験の豊かなボランティア活動者も含まれます。

### 「けあぼら」の活動

#### (1) ケア・ボランティアの情報プラットフォームの提供

被災している地域、及び避難者を受け入れている施設や避難所に、ウェブサイトによる情報プラットフォームを提供し、ケアワーカーのボランティア情報を提供します。

#### (2) ケア・コミュニケーションの支援

ケアワーカー同士、ケアワーカーと事業所や地域コミュニティの間のコミュニケーションを促進し、被災している地域、及び避難者を受け入れている施設や避難所におけるケアの経験知や情報共有を支援します。

#### (3) 新たなケア・コーディネーション手法の開発・提案

ウェブサイトをはじめとするITを用いたツールやシステムの開発を通じて、新しいケア関係を支えるボランティアコーディネーション手法を開発・提案します。

## 「けあぼら」が求める人

「けあぼら」が求めるケアの専門家とは、ケアによる収入があるかないかにかかわらず、ケアする相手の目線でともに考え、動ける人のことです。ですがこのような人は、自分の仕事や活動を持っていて、すぐには動けない人も多くいます。ですが、近い将来に勤務を調整することができれば、必要とされている場所に駆け付けられますし、長期は無理でも短期なら行けるという人もいるでしょう。「けあぼら」に登録して、「かけつける準備がある」と示すことで、「ケアの専門家に来てほしい」という現場の要請に応える最初の関係づくりができます。

## 「けあぼら」の利用事業者

「けあぼら」は、データベースの悪用を防ぐため、データベース閲覧をできる事業者には事前の登録をお願いしています。詳しい手続きは事務局へお問い合わせください。

## 「けあぼら」の賛同者

### < 賛同者・個人（アイウエオ順） >

- 岩下清子（大学教授 地域ケア研究者）
- 金子郁容（大学教授 政策・メディア論）
- 菊池雅洋（緑風園 総合施設長）
- 後藤麻理子（日本ボランティア・コーディネーター協会 事務局長）
- 堂本暁子（女性と健康ネットワーク 代表）
- 轟木洋子（国際草の根交流センター 事務局長）
- 中原美香（NPO リスク・マネジメント・オフィス 代表）
- 服部篤子（CAC 社会企業家ネットワーク 代表）
- 森信之（ジャパン・プラットフォーム 理事）
- ラザロ保科正和（医師・牧師）

### < 賛同者・団体（アイウエオ順） >

- あきしま地域福祉ネットワーク
- さわやか福祉財団
- 兵庫県被災者連絡会
- 横浜市ケアマネ協議会

### < プロジェクトアドバイザー（顧問） >

- 岩室紳也（地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター センター長）
- 和田敏子（高次脳機能障害者通所リハビリセンター・ケアセンターふらっと施設長）

### < 協力団体 >

- 株式会社エス・エム・エス（サイト構築）

## 「けあぼら」プロジェクト・スタッフ 紹介

### ○ 松原 弘子（まつばら・ひろこ） プロジェクト代表

社会福祉士。博士（医療福祉学）。専門は思春期の健康教育支援及びケア・ネットワークの構築。HIV 感染者の人権擁護の問題にかかわるようになったのをきっかけに、性暴力・性的虐待予防教育を進める専門職の育成教育などに携わるようになり、現在に至る。趣味は編み物、お菓子作り、写真。

### ○ 荒木 澄美（あらき・きよみ）

宝塚市社会福祉協議会職員。ボランティアコーディネーター歴 17 年、阪神淡路大震災の復興に関わる。平成 20 年度より重度心身障害者通所施設の統括。社会福祉士、ケアマネ、身体介護歴は 3 年。おもちゃ修理ボランティア、臍帯血搬送ボランティア、次世代育成を目的とした NPO 活動などをライフワークとする。山姥（ヤマンバ。山 Girl の中年クラス）

### ○ 貝塚 あずさ（かいづか・あずさ）

社会福祉法人世田谷ボランティア協会 福祉部非常勤職員。脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会事務局、兵庫県被災者連絡会(神戸市兵庫区)事務局などのスタッフを務める。阪神淡路大震災で活動を共にした関東のメンバーによる IMN(インディペンデントメディアネットワーク)を立ち上げ、「報道されない被災地の現実」をビデオ作成し、被災地外で上映する活動グループの代表を務める。

### ○ 柴山 志穂美（しばやま・しおみ）

看護師、主任介護支援専門員。看護師として在宅を経験した時、チームケアや生活全体のコーディネートに魅力を感じ、平成 12 年より介護支援専門員となる。一年間、介護老人保健施設の相談員を経験。現在、東京都内介護保険事業所で介護支援専門員の育成に携わる他、日本ケアマネジメント学会で認定ケアマネジャーの会運営にも携わっている。

### ○ 神保 康子（じんぼ・やすこ）

フリーランスのライター・カメラマン。国際医療福祉大学大学院医療福祉ジャーナリズム分野博士課程 2 年に在籍。

### ○ 中島 民恵子（なかしま・たえこ）

社会福祉士。博士（政策・メディア）。専門は高齢者福祉政策、認知症ケア、コミュニティケア。大学時代、ボランティアをしていた特養にて認知症の人と出会い、ケア、環境、政策に関心をもつ。それ以降、当事者、現場との関わりの中で研究に従事している。

### ○ 福田 亮（ふくだ・りょう）

電気工学修士修了。外資系 IT 企業にてコンサルタントを経て、現在は金融系企業の IT 企画部門に勤務。学生時代より様々な NPO 活動に関わっている。

### ○ 的場 由木（まとば・ゆき）

看護師、保健師、介護支援専門員。東京都内の更生保護法人において、人材育成、調査研究にかかわる。

### ○ 水下 明美（みずした・あけみ）

社会福祉士。精神保健福祉士。児童指導員。知的障害者福祉司。認知症ケア上級専門士。障害児・者の福祉に始まり、幼稚園・保育園にて幼児教育にも携わっていたが、祖母の認知症発症を機に高齢者福祉へ転向。家族介護を経験し、現在は認定ケアマネジャーとして高齢者福祉に携わる。

## なぜ「けあぼら」？

「けあぼら」は、ケアの専門性を持つ人＝ケアワーカーがボランティアとして被災地にかかわりやすくなるための仕組みを作ろうと計画されました。

今、被災地では、多くのケアワーカーが必要とされています。そして今後も長く、必要とされている状況が続くでしょう。

このような状況に対して、自分にできることがあればできるだけかかわりたい、と考えている人も大勢います。

しかし実際にかかわろうとすると、被災地と直接連絡する方法を持たなかったり、連絡方法を知っていても、すぐに依頼があったときに動けなかったり、勤務調整ができなかったりするなど、現地に向かうためには越えなければならないハードルが高く、ちゅうちょしてしまっている人も大勢います。

「けあぼら」は、このような「見えない人たち」を見えるようにしようとする試みです。被災地のケアの現場では、できるだけ多くの、息長く被災地とかかわり続けようとする人や組織が必要とされています。職場や所属している協会からの派遣はトップダウンのシステムですが、ボトムアップの、個人的な信頼関係を紡ぎ出せるようなシステムは、一人ひとりのケアワーカーが特定の事業所や決まった現場と深くかかわれる可能性を生み出すことができます。

ケアワーカーは相手のニーズを第一に考えて行動する専門職であるために、被災地のケアワーカーは、自らが被災しているにもかかわらずそのことを顧みず、自分のニーズよりもケアを受ける人のニーズを優先して考えます。この状況に、全国から、同じ専門性をもつ仲間がボランティアとして自主的にかかけつけ、活動することで、仲間のケアワーカーのニーズを考えた支援を生み出す可能性があります。

「ケア」の語源は気遣うこと、「ボランティア」の語源は自主性です。ケアを専門とする人が、この甚大な被害をみて、被災地を気遣い、自主的に行動しようとするのは、何ら矛盾しません。大切なことは、ケアを専門とする者として、被災地を自発的に気遣わずにはいられない、その気持ちと行動を形にしていくことです。今は現場を持っていて、すぐには行動できないとしても、永遠に行動できないわけではありません。「けあぼら」は、少しずつでも、息長く気遣い続ける気持ちがあり、そのために行動する準備をしているケアワーカーがいることを、被災地の仲間に示す手段です。

**お問い合わせ：けあぼらプロジェクト事務局**

所在地：〒154-0024 世田谷区三軒茶屋1-36-3 第二オリンピックマンション305 電話：03-3795-5257

[info@carevola.jp](mailto:info@carevola.jp) 直通携帯：070-5010-3194/FAX:03-3795-5277